平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	ゼミナールⅡＢ(SeminarⅡＢ) 【松下ゼミ】			授業コード	E002555
担当教員名	松下　乾次			科目ナンバリングコード	E21202
配当学年	2	開講期	後期		
必修・選択区分	必修	単位数	2		
履修上の注意または履修条件	とくになし。				
受講心得	出席し、積極的に発言する。				
教科書	藤井彰夫『日本経済入門』(日経文庫)				
参考文献及び指定図書	授業で指示します。				
関連科目	広く、現代社会の問題を取り扱っている科目を履修してください。				

授業の目的	企業・組織の社会的責任を学習します。ゼミナールⅡBでは、ＩAに続いて戦後経済史の学習を通して、産業政策、そこでの企業と政府の行動を見ていきます。とくに、日本企業の役割と課題を見ていきます。また、ＩAに続いて、学習の習慣をつけてもらうため、ツール(とくに、読む、書く、話す)の習得もゼミナールの課題とします。
授業の概要	戦後日本経済史を引き続き学習します。ⅡBでは、戦後の産業政策と規制緩和、構造改革そして現在の金融・経済の現状を見ていきます。現代企業の活動の背景にある、社会、経済、金融がどのような状況にあるのかを学習します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： ガイダンス。ゼミナールの課題について ゼミナールの課題を確認し、各自の学修目標を設定し、履修・就職についても考えてもらいます。	学修計画・自己評価を提出。
第 2 週 ： ゼミナールⅡAで学習した課題を復習(確認) 前期期末試験の講評。戦後日本経済史、平成30年経済史のアウトラインを復習。	ゼミナールの内容をノートに整理する。
第 3 週 ： ゼミナールⅡAで学習した課題を復習(確認) 第2週に続き、平成30年の経済史・アベノミクスまでを復習(教科書1章)。	全員が教材を使って、予習復習をする(1h2h)。ゼミナールの内容をノートに整理する。
第 4 週 ： 教科書第2章　第4次産業革命と日本 まず、戦後の産業政策を概観する。高度経済成長期において日本の産業政策は機能したか。 90年代以降の規制改革について、そして今の産業構造の変化を見る。	全員が教材を使って、予習復習をする(1h2h)。ゼミナールの内容をノートに整理する。
第 5 週 ： 教科書第2章　第4次産業革命と日本 今の産業構造の変化、産業政策、そして日本のおかれている問題を見る。	全員が教材を使って、予習復習をする(1h2h)。ゼミナールの内容をノートに整理する。 レポート課題「第4次産業革命について」を提出。
第 6 週 ： 教科書第3章　人口減少と少子・高齢化の衝撃	

少子高齢化の現状と問題を見る。また、労働力をどう確保するか。	全員が教材を使って、予習復習をする(1h2h)。ゼミナールの内容をノートに整理する。
第 7 週 : 教科書第3章　人口減少と少子・高齢化の衝撃 雇用の問題を考える。	全員が教材を使って、予習復習をする(1h2h)。ゼミナールの内容をノートに整理する。
第 8 週 : 教科書第3章　人口減少と少子・高齢化の衝撃 社会保障の問題を見る。	全員が教材を使って、予習復習をする(1h2h)。ゼミナールの内容をノートに整理する。
第 9 週 : 教科書第3章　人口減少と少子・高齢化の衝撃 社会保障の課題と解決策を考える。	全員が教材を使って、予習復習をする(1h2h)。ゼミナールの内容をノートに整理する。 レポート課題「少子高齢化と社会保障について」提出。
第10週 : 教科書第4章　金融政策・財政の試練 アベノミクスとその問題点についてみる。	全員が教材を使って、予習復習をする(1h2h)。ゼミナールの内容をノートに整理する。
第11週 : 教科書第4章　金融政策・財政の試練 財政構造改革、地方財政、地方創生を見る。	全員が教材を使って、予習復習をする(1h2h)。ゼミナールの内容をノートに整理する。 レポート課題「アベノミクスの課題:金融、財政、経済成長の観点から」提出。
第12週 : 教科書第5章　エネルギー問題と地球温暖化	全員が教材を使って、予習復習をする(1h2h)。ゼミナールの内容をノートに整理する。
第13週 : 教科書第6章　グローバル経済と日本	全員が教材を使って、予習復習をする(1h2h)。ゼミナールの内容をノートに整理する。
第14週 : 教科書第6章　グローバル経済と日本	全員が教材を使って、予習復習をする(1h2h)。ゼミナールの内容をノートに整理する。
第15週 : 教科書第7章　2030年の日本	

21世紀の日本の課題。地方の課題についても。 昨年と今年の出来事と行事予定。 後期のゼミの内容の復習。	全員が教材を使って、予習復習をする（1h2h）。ゼミナールの内容をノートに整理する。 レポート課題「日本の地方の課題」提出。
第16週： 期末試験	

授業の運営方法	（1）授業の形式	「演習等形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	該当しない	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	日本の経済・金融・財政・社会保障・地方がどういう状況にあるか、強い関心を持つ。
【知識・理解】	日本の戦後の経済・金融・財政・社会保障・地方について考えるために、基本的な知識を持つ。
【技能・表現・コミュニケーション】	日本の戦後の経済・金融・財政・社会保障・地方について、主要な論点を整理してまとめる。
【思考・判断・創造】	日本の戦後の経済・金融・財政・社会保障・地方について、自分の意見を持つ。

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	**期末試験・中間確認等（テスト）**	**レポート・作品等（提出物）**	**発表・その他（無形成果）**	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		**10点**	**15点**	
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	**30点**	**10点**		
【技能・表現・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		**10点**	**15点**	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		**10点**		

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	主要論点を指示して、その理解度で評価する。
発表・その他（無形成果）	関心意欲の高さ、表現力（分かりやすさ）で判断する。